

「校訓とともに」

～「矢の原会（卒業生会）だより」寄稿から～

高校にはおそらくどこにも「校訓」があります。南高の校訓は、ご存知のように三つの四字熟語で構成されていますが、ほかの高校はどうなんだろうと、県内公立36校の校訓を調べてみました。

どんな言葉が多く使われているのか。ランキングでご紹介します。

- ・第1位「創造」（9校）
- ・第2位「誠実」（6校）
- ・第3位「質実剛健」「進取」「勤勉」「自立」「敬愛」（各4校）

そして、わが南高は「質実剛健」・「創造進取」・「和敬共栄」。

一つ目の「質実剛健」は周年誌によると「松江中学からの命脈」とありましたが、二つ目と三つ目は検索しても出てこない、ワープロも一発変換しない、どうやらないずれも二字の熟語を合体させた言葉のようです。つまり、四つの訓えを二つに凝縮させるという、ずいぶん欲張りな校訓。ただ、あえてこのような合体型を「創作」したところに、開校に携わった方々の並々ならぬ思いが感じられます。

南高の開校は昭和36年。日本が高度成長にまさに向かおうとする、創造・進取の気に満ちた時代です。一方で競争の弊害もささやかれ始める頃でもあり、その中で「和敬・共栄」を謳うところには、未来を予見するような深い意味を感じます。そして、この56年前の校訓が、今の時代にもごと通用する言葉であることに驚かされます。

ただ、生徒たちは残念ながらこの校訓にあまり馴染みがありません。来客用玄関に第二代校長、御年105歳となられた飯塚一雄先生の揮毫が掲げられていますが、生徒が日常目にする場所には校訓掲示がありません。そこで入学式の前日、仮設置ながら急遽体育館の壁面に三枚、紙印刷の校訓をデカデカと貼りつけました。

以来三ヶ月、紙の校訓は破損することもなく堂々とその存在感を誇示しています。生徒たちがこの文字に馴染んできたところを見計らって、校訓ネタの話をしようかなと秘かに思っています。

複雑化した時代こそ原点回帰、と言います。今一度校訓の精神に立ち返ることも必要だろうと思います。南高とともに半世紀を歩んできた校訓が色褪せることのないように、「欲張りな」校訓に恥じない高校であり続ける。高いハードルではありますが、校長として肝に銘じています。